生産作業の省力化

ドローンで土壌改良資材を散布

2019 年 12 月 4 日(水)

作業の省力化と効率化を図るため、JA 全農と資材メーカーが見守るなかドローンで土壌改良資材の散布を試みました。

大津市の農事組合法人ふぁーむ牧のほ場 40 アールで、ドローンを用いた土壌改良資材の散布を行いました。

大津市のほ場は、ケイ酸・加里・苦土が不足している土壌が多く、土壌改良資材の散布は稲作の中でも重要な作業の一つ。作業の省力化と効率化を図るため、JA 全農と資材メーカーが見守るなかドローンでの散布を試みました。

役職員が管内農業の現状を報告するとともに、農業者が意欲と将来展望を持って農業に取り組めるよう、次年度の農業施策と予算措置に関する要望書を越市長に手渡し、意見を交わしました。

当 JA は通年のドローンの有効活用を先進的に研究し、生産者の作業の省力化に取り組んでいますが、現在の機体では大量の粒剤形資材の散布には限界もあります。しかし、南営農経済センターの田中章吾センター長は、「今後もドローンの活用方法を模索しながら、生産者の作業をサポートできるよう積極的に研究を進め、継続していきたい」と考えています。